

統合失調症の病名変更が新聞報道に与えた影響 過去約 30 年の網羅的な調査

1. 発表者：

小池 進介（東京大学 学生相談ネットワーク本部 / 保健・健康推進本部 講師）

2. 発表のポイント：

- ◆過去約 30 年間の新聞記事 2,200 万件の調査から、病名を「精神分裂病」から「統合失調症」に変更後、「精神分裂病」を使用する記事がほとんどなくなったことを明らかにしました。
- ◆このマスメディア報道の変化は、統合失調症の偏見・差別の減少に一定の貢献をしている可能性があります。
- ◆一方で、病名変更後も「統合失調症」を含む記事は犯罪に関連づけられる傾向が続いており、マスメディア報道では、犯罪と精神疾患との安易な結びつけをしない取り組みが必要です。

3. 発表概要：

東京大学学生相談ネットワーク本部 / 保健・健康推進本部の小池 進介講師らの研究グループは、過去約 30 年間の新聞記事 2,200 万件の網羅的な調査から、病名を「精神分裂病」から「統合失調症」に変更後、「精神分裂病」を使用する記事はほとんどなく、統合失調症の偏見・差別の減少に一定の貢献をしている可能性を示しました。

これまで、統合失調症が犯罪関連記事とともに報道されることが多いことは、偏見・差別を助長する原因の一つとして指摘されてきました。日本では 2002 年に、「統合失調症」は「精神分裂病」から名称を変更し、統合失調症の偏見・差別を小さくすることを世界に先駆けて示してきました。しかしこれまで、病名変更がマスメディアに与えた影響を網羅的に解析した研究はなく、実態を把握することが望まれていました。

今回、本研究グループは、1985 年 1 月 1 日から 2013 年 12 月 31 日に朝日新聞、産経新聞、毎日新聞、読売新聞で記載された新聞記事 2,200 万件から、「精神分裂病」「統合失調症」「うつ病」「糖尿病」を見出しもしくは本文に含む 5 万件を、テキストマイニング（注 1）という手法を用いて検討しました。その結果、病名変更後、「精神分裂病」を使用する記事はほとんどなく、統合失調症の偏見・差別の減少に一定の貢献をしていると示唆されました。その一方で、病名変更後も「統合失調症」を含む記事は、犯罪に関連づけられる傾向が続いていました。

これまでの犯罪研究により、犯罪事案は、統合失調症など精神疾患の有無よりも、貧困などの社会経済的状況、両親の離婚や虐待などの社会環境、アルコールや違法薬物の問題と関係していることが分かっているため、マスメディア報道では、犯罪記事で精神疾患との関係を安易に結びつけず、他の要因も踏まえたうえで、多角的に議論する必要があります。

4. 発表内容：

① 研究の背景・先行研究における問題点

マスメディア報道は、精神疾患についての偏見・差別に影響を与えます。これまでの国内外の研究で、統合失調症の偏見・差別が依然として根強く、その原因の一つとして、統合失調症が犯罪関連記事とともに報道されることが多いことが指摘されてきました。

日本では2002年に、統合失調症は精神分裂病から病名を変更しました。病名変更の経緯として、旧病名が病態を反映せず、マイナスのイメージを想起させるため、患者家族団体である全国精神障害者家族会連合会が、日本精神神経学会に要請し、病名変更が実現しました。近年、小池進介講師らを中心とする研究グループの調査により、病名変更が偏見・差別の是正に寄与している可能性を世界に先駆けて報告しました（Koikeら, *Soc Psychiatry Psychi Epidemiol*, 2015）。ただし、新聞やニュース等のマスメディア報道が統合失調症を扱う際、犯罪と関連づけて報道され続けた場合、「統合失調症」という病名についても偏見・差別が生まれていく可能性が否定できません。これまで、病名変更前後の新聞記事の一部を無作為抽出して検討した研究はいくつかありますが、網羅的に解析した研究はなく、実態を把握することが望まれていました。

② 研究内容（具体的な手法など詳細）

東京大学学生相談ネットワーク本部／保健・健康推進本部の小池進介講師ら研究グループは、民間データベース（ジー・サーチ データベースサービス）に依頼して、1985年1月1日から2013年12月31日に朝日新聞、産経新聞、毎日新聞、読売新聞で記載された新聞記事2,200万件から、「精神分裂病」「統合失調症」「うつ病」「糖尿病」を見出しもしくは本文に含む5万件を抽出しました。また、NHKニュース94万件についても同様に1,100件を抽出しました。各病名について記事数を年ごとに検討しました。さらに、新聞記事の見出しについてはテキストマイニングという手法を用いて、見出しに使われた単語の傾向を統計学的に分析しました（図3上）。

結果（1）

各病名を含む記事数は、年々増加していました。特に、「精神分裂病」「統合失調症」を含む記事数の割合は2001年から2009年まで、「うつ病」を含む記事数の割合は2003年から2010年まで年々増加していました（図1左上）。「糖尿病」の記事数と比較すると、「統合失調症」「うつ病」の記事数は2003年以降に有意に増加していました（図1右上）。「うつ病」の記事数と比較すると、「精神分裂病」「統合失調症」の記事数は2000年から2005年まで有意に多くみられました。NHKニュースについても同様の傾向が確認されました（図1下）。

結果（2）

2002年の新聞記事およびNHKニュースにおいて、それぞれ38.9%、40.0%の統合失調症に関する記事が、「精神分裂病」「統合失調症」双方の名称を含んでいました（図1）。それ以降は、「精神分裂病」という用語はほとんど使われなくなり、2004年以降は、3件の新聞記事で使われたのみで、NHKニュースでは使われていませんでした。

結果（3）

見出し自体に「精神分裂病」を含む記事数の割合は5.1%で、「統合失調症」では9.0%と増加していました（図2）。しかし、「うつ病」についても、2001年以前の12.9%から2002年以降の18.0%と増加しており、「統合失調症」と「うつ病」との間で有意な差は認められませんでした。「糖尿病」については、12.5%から13.1%と増加を認められませんでした。

結果（４）

テキストマイニング解析では、「精神分裂病」「統合失調症」を含む記事は、「精神」という単語が記事見出しにもっとも多く用いられていました（図 3 左下）。病名変更前後の傾向に違いはなく、記事見出しに用いられた単語の 24.5%が犯罪関係でした（図 3 右下）。「自殺」「自死」「自傷」という単語は、「うつ病」を含む記事の見出しで 2.2%を占め、他の病名ではほとんど用いられていませんでした。

③ 社会的意義・今後の予定 など

本研究は、29 年間の膨大な新聞記事データを用いて、統合失調症の病名変更がマスメディア報道にどう影響を与えたのか検討しました。近年、ビッグデータを適切に解析できる手法が急速に進歩しており、本研究でもテキストマイニングという手法を用いて、より適切な解析が可能となりました。

結果（１）から、統合失調症の病名変更によって、2002 年前後の記事割合が一時的に増加したと示唆されました。しかし 30 年という時代の流れで見ると、一般市民の医療への関心の高まりが、マスメディア報道により影響を与えている可能性もあります。結果（３）と合わせると、精神疾患についての偏見・差別の解消および一般市民への浸透も、報道に影響していると示唆されました。

結果（２）から、病名変更以降のマスメディアの病名使用は非常にコントロールされており、「精神分裂病」を使用する報道はほとんどありませんでした。一般大学生の半分以上が「精神分裂病」と「統合失調症」が同じ病態を示していることを認識しておらず (Koike ら, *Soc Psychiatry Psychi Epidemiol*, 2015)、マスメディア報道のコントロールは、統合失調症の偏見・差別の減少に一定の貢献を示している可能性があります。

その一方で、結果（４）から病名変更後も「統合失調症」を含む記事は、犯罪に関連づけられることが続いていました。これはマスメディア報道を検討した国内外の検討と同様でした。これまでの犯罪研究により、犯罪事案は、統合失調症などの精神疾患の有無よりも、貧困などの社会経済的状況、両親の離婚や虐待などの社会環境、アルコールや違法薬物の問題と関係していることが分かっています。犯罪記事で精神疾患との関係を安易に結びつけるのではなく、他の要因も踏まえたうえで、多角的に議論する必要があります。

5. 発表雑誌：

雑誌名：「Schizophrenia Bulletin」 (オンライン版：11月26日掲載)

論文タイトル：Effect of name change of schizophrenia on mass media between 1985 and 2013 in Japan: A text data mining analysis

著者：Shinsuke Koike*, Sosei Yamaguchi, Yasutaka Ojio, Kazusa Ohta, Shuntaro Ando

DOI 番号：10.1093/schbul/sbv159

アブストラクト URL：

<http://schizophreniabulletin.oxfordjournals.org/content/early/2015/11/26/schbul.sbv159>

6. 用語解説：

(注 1) テキストマイニング：文章を単語や文節で区切り、出現頻度、出現傾向、時系列などを解析する方法。日本語の言語解析処理の発展と、文章の電子化が進んだことによって、近年急速に注目されている。アンケート回答の傾向分析や、ツイッターなどのインターネット情報の時間経過に沿った解析など、膨大なテキストデータを多角的に、客観的に解析できる。

7. 添付資料：

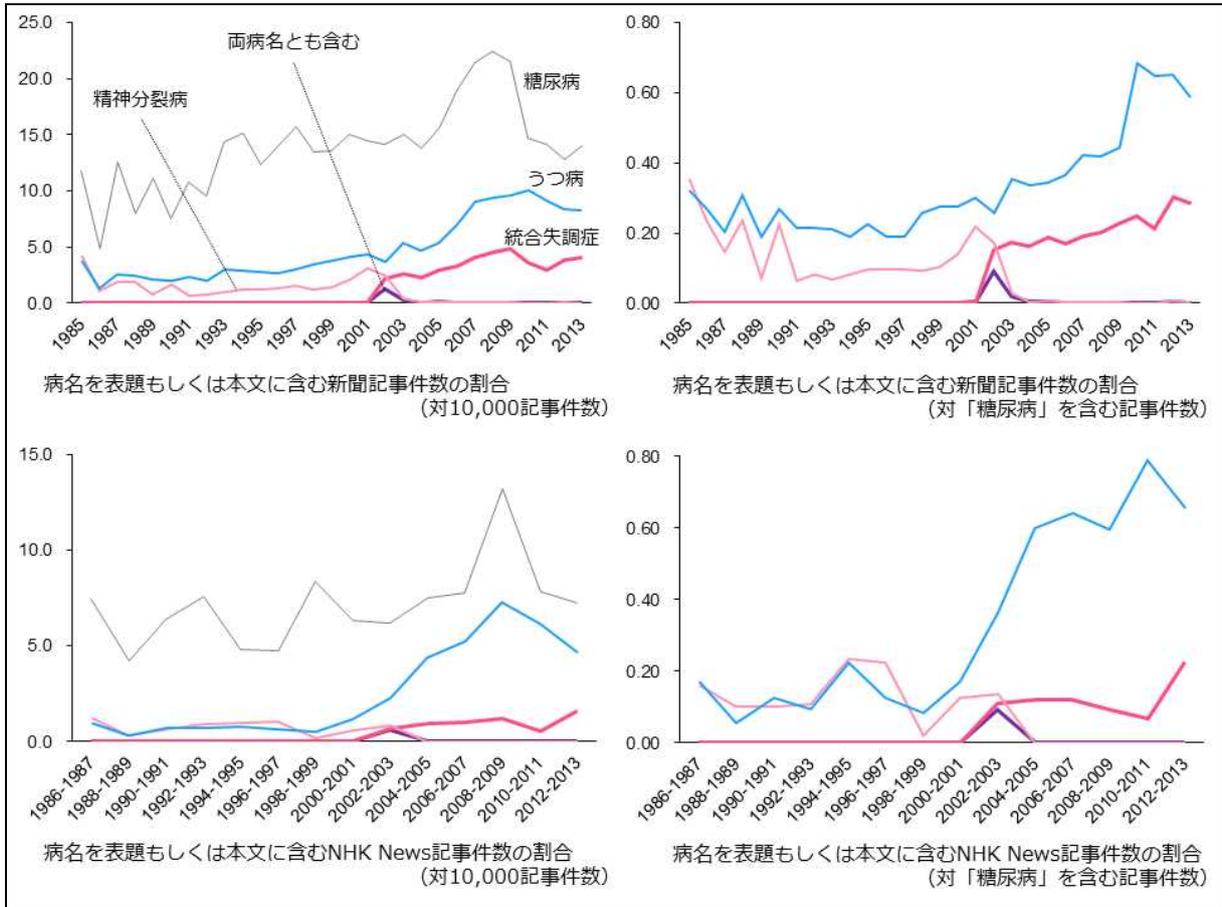


図 1. 各病名を含む記事数 の年次割合

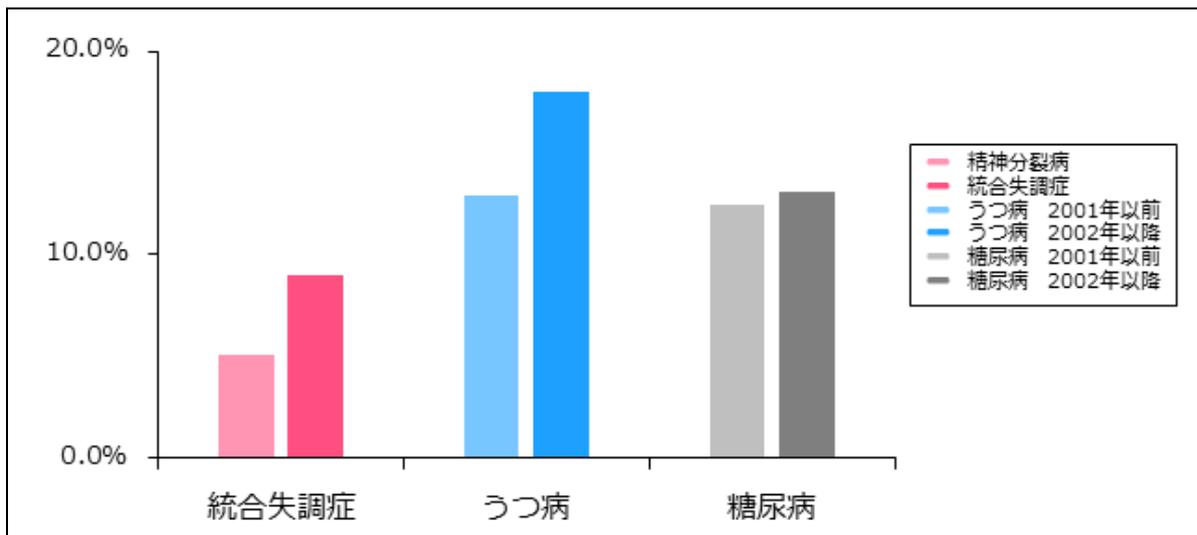


図 2. 病名を含む新聞記事のうち、病名が見出しにある記事の割合

統合失調症の病名変更が新聞報道に与えた影響

統合失調症 病名 変更 新聞 報道 影響

1. 新聞見出しを、品詞（名詞、動詞、形容詞等）ごとに分解
2. 名詞と動詞について集計
3. 各単語をカテゴリー分類し、単語の傾向を分析

病名を含む新聞記事の見出しで、用いられた頻度が高かった上位10単語

順位	統合失調症		うつ病		糖尿病	
	精神分裂病	統合失調症	2001年以前	2002年以降	2001年以前	2002年以降
1	精神	精神	自殺	自殺	健康	医療
2	事件	地裁	精神	地裁	医療	健康
3	被告	判決	心	心	治療	病院
4	障害	障害	過労	精神	患者	患者
5	地裁	被告	医療	判決	病院	治療
6	殺人	殺害	ストレス	相談	生活	生活
7	判決	懲役	健康	病院	薬	予防
8	殺傷	裁判	障害	医療	予防	情報
9	鑑定	殺人	人生	殺害	移植	新型
10	責任	事件	地裁	障害	死去	習慣

病名を含む新聞記事の見出しに用いられた単語のカテゴリー

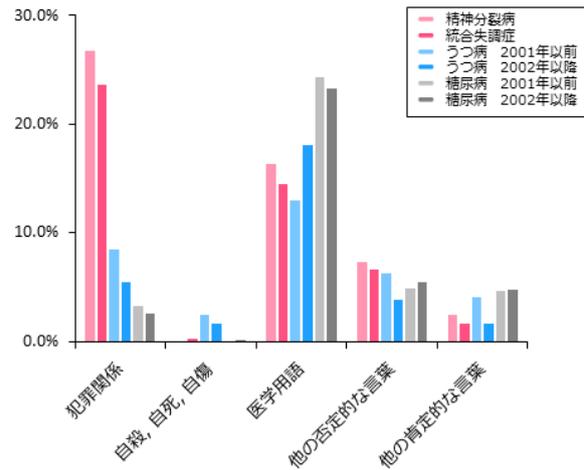


図 3. テキストマイニングの解析例と、病名を含む新聞記事の見出しに用いられた単語